

ひと

今回は小倉北区にお住まいの吉田さんにお月忌の折りお願いしました。



念信寺と私

吉田昭和（北九州市）



父が内垣の出身で、私もこの地で生を受けました。父の仕事の関係で内垣を離れ、行橋、苅田、小倉と移住、現在に至っています。

念信寺さんと

は、次の二つの出来事で御縁を戴いたと思っています。

一つは、父が他界した時（昭和五十年）の事です。お寺関係の事を理解していない事から、父の葬儀を町内の浄土真宗のお寺で行った翌日に、念信寺の前ご住職から連絡を戴きました。「吉田さんとは兄弟同然であり、彼の供養は私がやる。安心なさい」と。初七日以後の法要から、念信寺ご住職の温かいお経で、父は安らかに眠っている事と思います。二つ目は、妹が嫁いで一年近くで急逝した時の事です。妹の夫もまだ若く、彼の先の幸せを考え、妹の供養は吉田で行いたいと申し出たが、嫁ぎ先の舅さんは「長男の嫁であり、

自分の家で供養をしたい」と強く申し出られました。お気持ちには有難がったが、妹の先の供養を考え、困っていた時に、前ご住職に、先方が納得される様な説得を戴き、妹の供養は吉田家で行う事が出来る様になりました。お互いの善意による主張であり、ご住職でなければ纏る話ではなかったと感謝しています。

この二件の出来事は、私には忘れられない事であり、お寺との御縁を強く感じた事でした。前ご住職には父の事を教えられ、現ご住職に月一度のお参りを戴く折、心むお経とお話し合いを楽しみにしている私です。

お父様の徳一氏は技術畑の優秀な人物で地場企業の重役を務められました。念信寺ともご縁が深く、伯父の家庭教師をして頂いたご恩があるそうです。いつもご連絡を差し上げても、気持ちよく丁寧な対応をしてくださり、家庭の雰囲気が一朝一夕にできるものでないことを教えられます。



紘ちゃんの独り言

安全第一

尾形紘光（添田町）

安全第一、安全第一、安全第一。この言葉は、私が農作業に出掛かる前、農業機械で作業する前、自動車に

乗る前等に必ず三唱している言葉です。南無阿弥陀仏をいつも口から出るように意識しなさいとよく言われますが、これに通ずるような感じではないかと思えます。



さて現在農業事故で死亡する方が年間約400名くらいだといわれております。全産業の中で就業人口に占める割合で見るとダントツに多い数です。

昨年、農業委員会の視察研修の帰りに、ある大手農業機械メーカーの工場見学に行きました。その工場はコンバインを製造している工場でした。

工場に入ると立派な展示ゾーンに案内され、工場の概要や機械についての説明を受けた後、体験ゾーンでは最新鋭のコンバインにVRのめがねをつけて素晴らしい動きと、作業性、安全性が体験でき感動ものでした。

次に工場内の見学に移りましたが、そこでも最新鋭の工作機械や溶接ロボットなどを駆使しており、ゴミ一つ無い清潔な工場でした。

しかし最終工程の組み立てラインで見たものは安全な機械とはほど遠い作業でした。それは、手作業でシャフトにプロペラ状のコマを取り付ける作業でしたが、作業員がプロペラの穴にシャフトを通そうとしたが入らず別のプロペラ部品で叩き入れようとして無理に押し込もうとしている姿でした。

こんな大手の機械メーカーでも作業標準を無視した作業が行われていることに驚きました。溶接の外れや、シャフトの歪みを招きかねない危険な作業なのです。

農家の皆さんは機械の外観や性能、等でメーカーを信頼し機械を使っていますが、しかし絶対に安全とはいえません。

自分の為、家族のため、ひいては地域のために安全意識を常持って農作業をする事が必要だと思えます。

今年も1年安全第一、無事に農作業が出来ますことを願っています。



後生の一大事① 死後の極楽浄土とは？

お彼岸の季節です。彼岸とは、この迷いの世界を離れた悟りの岸のこと。お浄土の教えは、今生の住みにくさ、苦しみの多いこの世、憂き世から離れたたいという切実な願いから始まっています。

私たちは人間関係、健康、経済的不安など、欲求不満や不安を抱いて生活しています。昔の人はこの苦しみは今生だけでなく、次の生も、また次もと、永遠に続く輪廻すると思えました。

現代人である我々はロケットで西に飛んでも極楽浄土には行き着かないことを知っています。自然科学の知識は死ねば骨になるだけだと教えていて、私が生きるこの意味を教えるはくれません。それで、せいぜい人間社会で心地よくこの世を生きていく事くらいしか考えつきません。仏教的に言うところ、迷いの生存を繰り返す生き方しかできないのです。それでは生きていく不安に根本的にぬぐえません。



← 4頁の②に続く